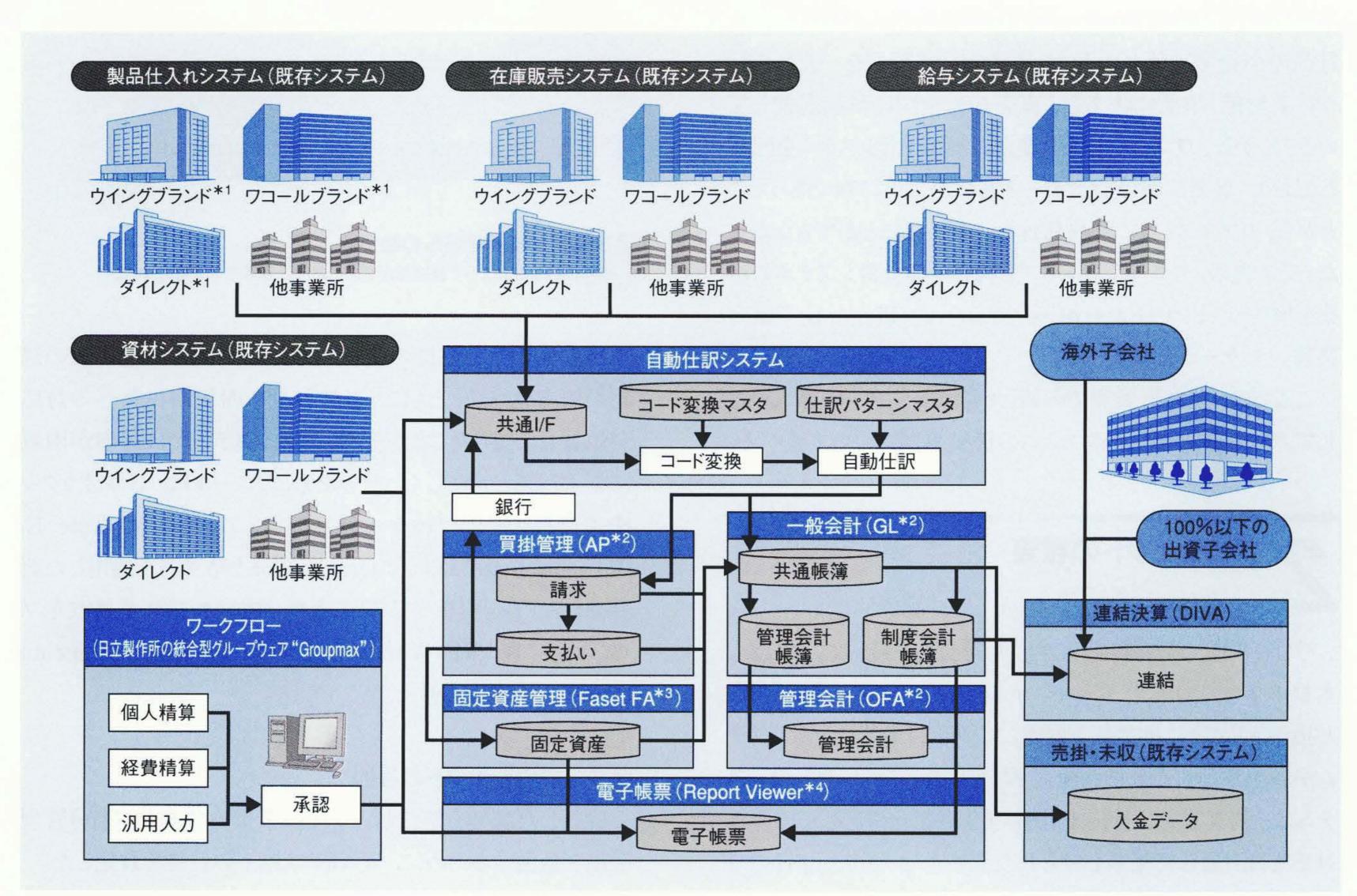
# 会計システム構築ソリューション 株式会社ワコールにおける新会計システムの構築事例

# **Solutions for Constructing a New Accounting System**

原田哲夫 Tetsuo Harada 大河原宏之 Hiroyuki Ôkawara

亀井裕明 Hiroaki Kamei 瀧 芙美子 Fumiko Taki



注:略語説明ほか I/F(Interface), AP(Payables), GL(General Ledger), OFA(Oracle Financial Analyzer), DIVA(Diva System) \*1 ウイングブランド、ワコールブランド、およびダイレクトは、株式会社ワコールの事業部名である。 \*2 AP, GL, およびOFAは、Oracle E-Business Suiteの製品であり、Oracleは、 米国Oracle Corporationの登録商標である。\*3 FaSet FAは、日本ユニシス株式会社のパッケージソフトウェアである。\*4 Report Viewerは、キヤノン株式会社の帳票ソフトウェア である。

### 株式会社ワコールの新会計システムの概要

新会計システムの導入によって経理業務改革を行い、管理会計の充実と、経営体制のスリム化を目指している。

消費財製造業では消費者のニーズが多様になり、 少量多品種生産へと変わりつつある。このような背景 のもとにさまざまな経営戦略が進められ、経営面にお いても資金の流れを即座に把握できるシステムが必要 とされている。

株式会社ワコールは、30年にわたって使用してきた 会計システムを再構築した。新システムを2003年4月 から全社で稼動させ、会計業務の向上を実現した。新 システムでは、日本オラクル株式会社のERPパッケー ジである"Oracle E-Business Suite"を中心とし、既 存サブシステムを統合して業務システムとのデータ連 携も行っている。

日立製作所は、これまで培ってきた基幹業務システ ムのノウハウを活用し、ワークフロー技術や、最新技 術として注目されているXBRL(Extensible Business Reporting Language)技術を取り入れた。2003年4 月に新システムが全社で稼動してからは、月次2営業 日での決算確定など,会計業務の効率化,迅速化が 実現している。今後はこの会計データを活用して, キャッシュフロー経営の強化や管理会計の充実を図っ ていく。

# はじめに

近年の消費財業界では,市場のグローバル化,規制緩和 によって市場競争はいっそう激しくなっている。また、消費者 のニーズも広範囲にわたっているため、多品種少量生産の 時代に突入している。

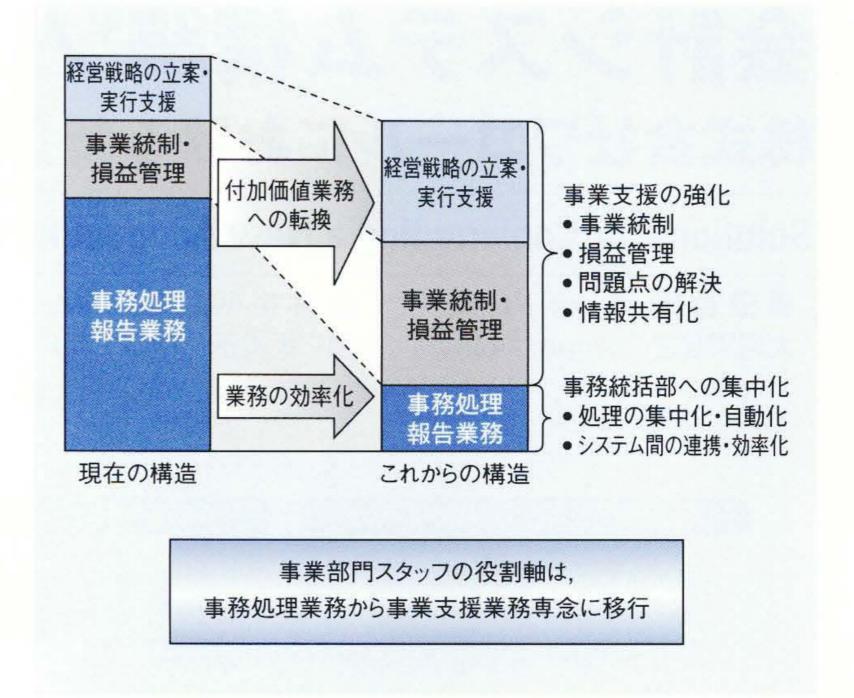
株式会社ワコール(以下,ワコールと言う。)は、SPA (Specialty Store Retailer of Private Label Apparel: 衣 料品の小売業で製品の企画・製造・流通・販売を一貫して行 う営業形態)事業に注力し、直営店を全国に積極展開して いる。しかし、ワコールでは事業部ごとに会計システムを配置 しており、事業部間の会計データ集計が1日に1回であったこ とから、リアルタイムに財務状況を把握することができなかっ た。そのため、ワコールグループを統合する会計システムの構 築を検討し、ERP(Enterprise Resource Planning:統合 業務)パッケージを導入した。

ここでは、消費財業界での新しい会計システムの導入例と して、ワコールの新会計システムの構築事例について述べる。

# プロジェクトの概要

ワコールは, 国内外に子会社, 関連会社を持っているほか, 本社の中でも婦人用下着や、ナイトウェア、スポーツウェアな ど扱う商品ごとに事業部を編成していることから、会計システ ムが各事業所にそれぞれ配置されていた。これらの会計シス テムは, 創業以来, 社内や社外の環境変化に応じて改革と 対応を繰り返して築き上げられたシステムであり、今日のワ コールの強固な財務体質を支えている基盤である。

しかし、エンドユーザーへの情報提供が紙主体であり配 布に時間がかかる、各支店事業部間でシステムの違いより



#### 図2 高付加価値業務への転換

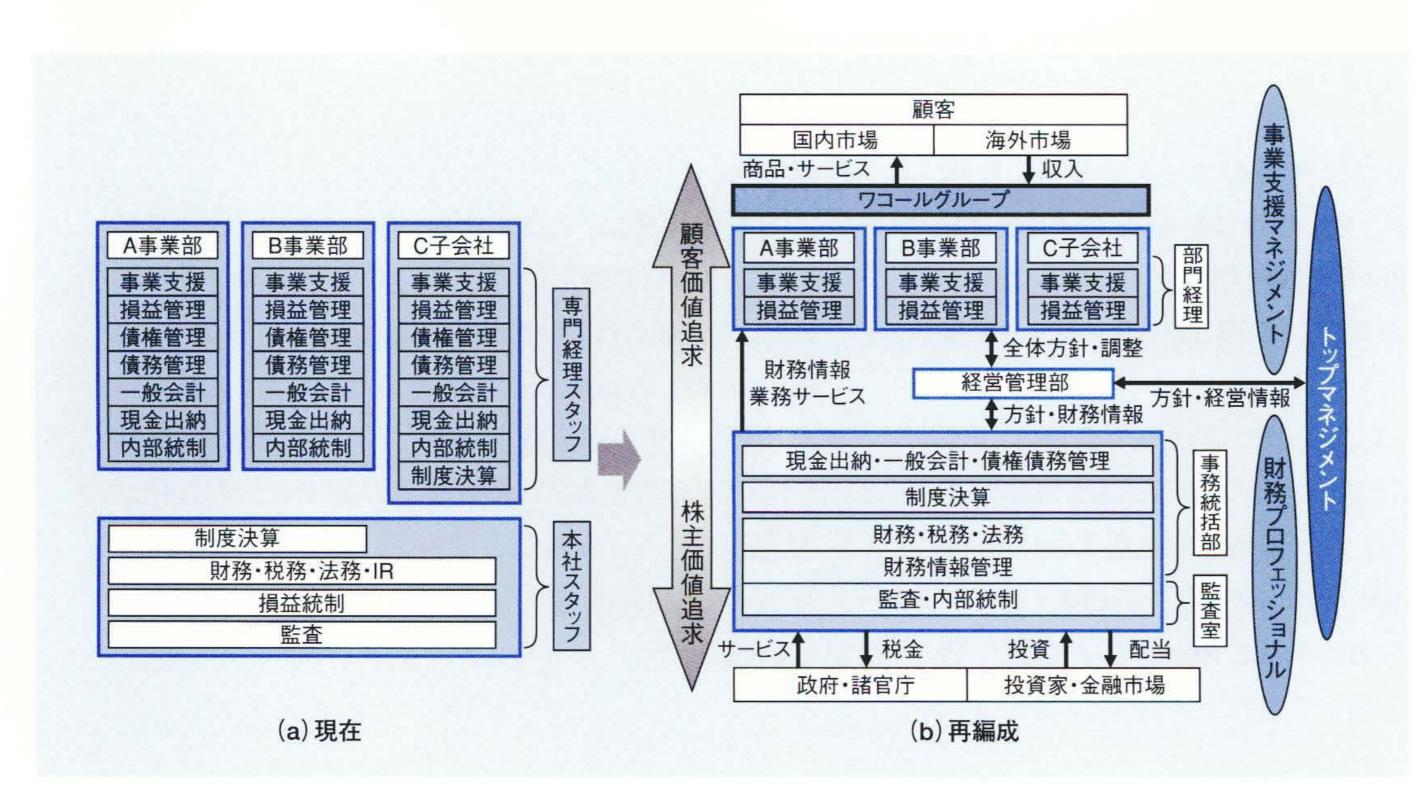
業務の効率化によって経理体制をスリム化し、事業支援を強化する。

業務差異が生じ要員のローテーションが困難であるなどの課 題が顕在化するとともに、連結会計や四半期決算への対応 が煩雑化してきたことから、従来のシステムでは対応が困難 になってくると判断した。そのため、ワコールは、日本オラクル 株式会社のERPパッケージソフトウェアである"Oracle E-Business Suite"(以下, Oracle EBSと略す。)を適用した新 会計システムを構築することになり、ワコール経理業務改革プ ロジェクト"WARP(Wacoal Accounting Re-engineering Project)"を発足させた。

### プロジェクトの目的

前述した課題を解決し、今後の事業の多様化に伴う管理 手法を整備するために、WARPは以下の目標を設定した。

(1) 経理業務のBPR (Business Process Re-engineering) 経理業務の徹底合理化・標準化, 承認決裁ルートの短縮 化を図る。



#### 図 1 経理システムの本 社への集約化

これまでは事業部や子会社 ごとに構成していた会計業務 とシステムを本社事務統括部 へ集約することにより、顧客価 値と株主価値の向上を図る。

注:略語説明 IR (Investor Relations)

#### (2) 管理会計の充実

月次2営業日での決算確定など、決算発表の早期化に よって経営管理をスピードアップし、新事業展開への対応を 強化する。

#### (3) 経営体制のスリム化

経理システムの一本化を実現し,あわせて経理業務共通 機能の本社事務統括部への集約を図る(図1参照)。これに より、経理部門要員を、煩雑化していた今までの事務処理業 務から、経営戦略の立案や事業統制、損益管理といった事 業支援業務に移行することができる(図2参照)。すなわち、 新システムの導入により、従来までの事務処理中心の業務か ら, 高付加価値業務へ転換する。

### 2.2 新会計システムの概要

新システムでは、Oracle EBSを中心に、既存システムと新 規に開発したサブシステムとを連携させる(17ページの図 参照)。

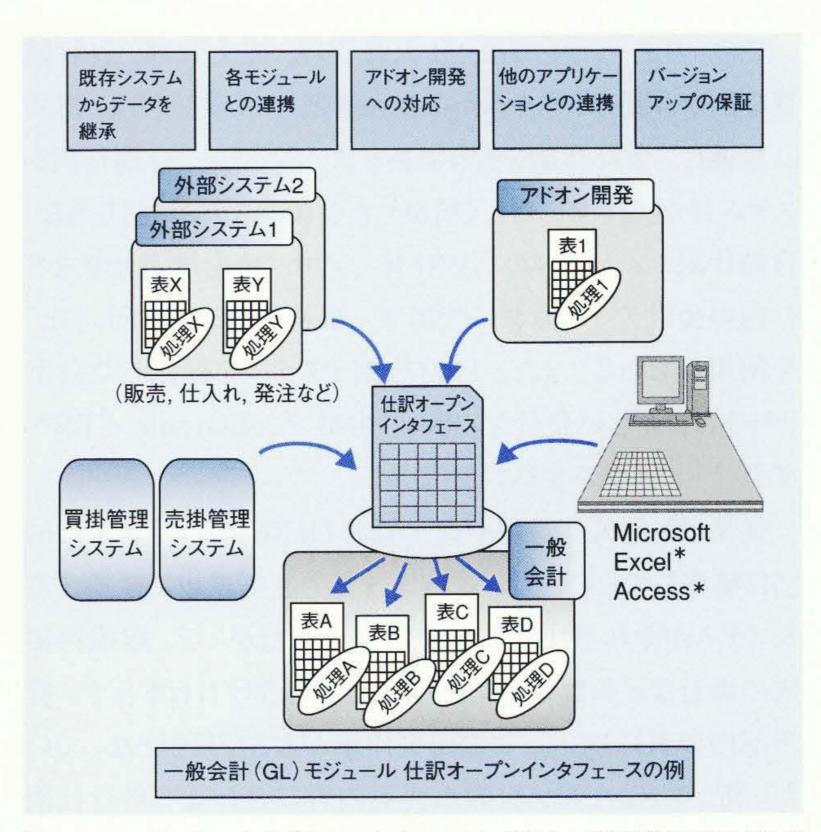
導入したOracle EBSのモジュールは, OracleのGL (General Ledger:一般会計)と、AP(Payables:買掛管 理)である。また、管理会計情報を多角的に分析できるOFA (Oracle Financial Analyzer)を導入した。固定資産管理 モジュールには、日本ユニシス株式会社のパッケージである "FaSet FA"を適用した。さらに、財務データ形式として国際 標準化が進められているXBRL GL(Extensible Business Reporting Language General Ledger)を世界で初めて実 用化した「自動仕訳システム」のほか、経理データの現場入 力を徹底させるために、日立製作所の"Groupmax"を利用 した「経費精算ワークフロー」や、紙主体の帳票データを電子 化してコスト削減を図るために、キヤノン株式会社の帳票ソフ トウェア"Report Viewer"を使用した「電子帳票システム」を それぞれ開発した。また、連結決算システム"DIVA"と売掛 未収システムなどの既存システムとの連携を図った。

# 導入したソリューション

### Oracle EBS 選定の理由

オープンインタフェースと呼ばれる外部システムとの連携機 能がOracle EBSの大きな特徴である(図3参照)。これは、 インタフェースを公開することにより、外部サブシステムとの共 存・統合を容易にするデータベースの機能である。このため、 連携するシステムとの項目マッピングやデータ連携プログラム の開発、データ検証などの工数を削減することができる。

WARPには、会計システムにデータを提供する販売・購買 などの業務システムは32あり、データ連携が不可欠であった ため、Oracle EBSのオープンインタフェース機能を活用し、 連携にかかわるプログラム開発の工数の削減を図った。



注:\*Microsoft ExcelおよびMicrosoft Accessは、米国およびその他の国における米 国Microsoft Corp.の登録商標である。

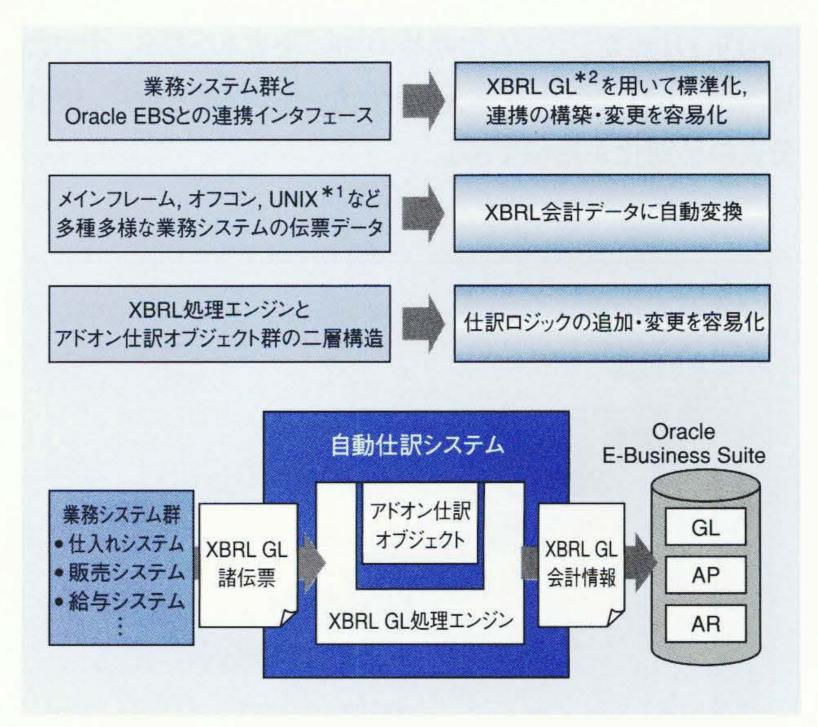
#### 図3 オープンインタフェースの概要

外部システムとの連携機能により、会計データを各システムや他のアプリケーショ ンから容易に取り込むことができる。

#### 3.2 自動仕訳ソリューション

WARPの「自動仕訳システム」は、最新の技術である XBRLを使用して開発したものである(図4参照)。

XBRLは、財務関連情報の作成・流通および利用を目的 としたXML(Extensible Markup Language)ベースの言 語である。ワコールは、標準的なXBRLを活用して開発した この自動仕訳システムにより、将来性のある汎用的なインタ フェースの実現を目指した。



#### 注:略語説明ほか

XBRL (Extensible Business Reporting Language), GL (General Ledger) AP (Payables), AR (Receivables)

- \*1 UNIXは、X/Open Company Limitedが独占的にライセンスしている米国なら びに他の国における登録商標である。
- \*2 XBRL GLは、総勘定元帳など社内の会計データ表現に用いる規格である。

#### 図4 自動仕訳システムの概要

各業務システムからの会計データを自動的にXBRL形式に変換し、Oracle EBS に取り込むことができる。

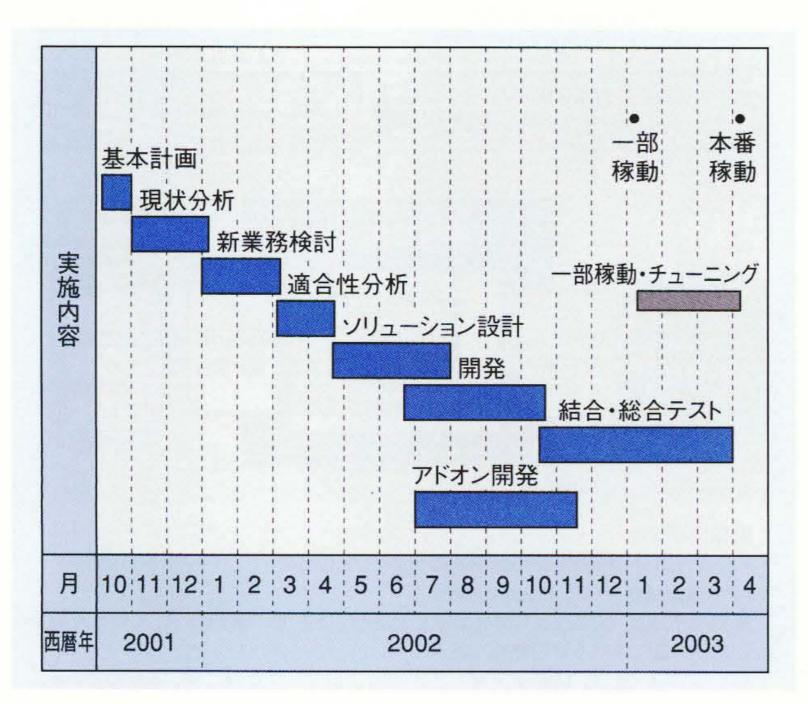
従来は、仕入れ管理や売上管理など業務システムを目的別に構築しており、それらのデータを会計処理用に変換するシステムがそれぞれ構築されていた。したがって、組織再編成の場合など多数のプログラムを変更しなければならず、経理部門要員にとって、この変更作業が大きな負担となっていた。新システムでは、組織の変更内容に合わせて自動仕訳システムのパラメータを変更するだけで対応できるようにするなど、運用面での作業工数を大幅に削減した。

# 4

# 新システムの効果と評価

新システムでは、当初の予定どおり、2003年1月から一部の事業所で、2003年4月には全社での本番稼動を開始した(図5参照)。

WARPの稼動により、ワコールでは、経理業務が大幅に効率化した。まず、月次の会計締め切り日が以前よりも2日早くなった。さらに、随時データ連携(15分に1回)を行うため、管理帳票の鮮度が大幅に上がった。決算発表時期については、2004年4月が新システム稼動後の初の決算となるが、すでに月次2営業日での決算確定などになっていることから、決算発表の早期化が期待できる。



#### 図5 WARPのスケジュール

作業工程のスケジュールを示す。2003年1月にウイングブランド事業部で一部の 稼動を迎え、2003年4月には全社での本番稼動がスタートした。 また,これまで紙主体で各部門に配布していた決算書関連帳票についても,電子帳票を導入したことにより,各種帳票のペーパーレス化,部門間での情報共有,検索,および再利用の効率化を実現した。

# 5

# おわりに

ここでは、消費財業界へのシステム導入の例として、ERPパッケージを適用したワコールの新会計システムの構築事例について述べた。

ワコールは、2003年4月に稼動させたモジュールに加え、 第二ステップとして、2004年6月の本番稼動を目指した、売 掛管理モジュールを導入するプロジェクトを進めている。この プロジェクトが終了すると、ワコール全体の会計システムの再 構築が完了したことになる。この売掛管理モジュールの導入 によって精度をいっそう向上させた会計情報を活用し、さらに 充実した管理会計の実現を目指していく。

## 参考文献など

- 1) 磯川, 外:食品業界における基幹システム構築の動向,日立評論,84,12,761~766(2002.12)
- 2) XBRL Japanホームページ: http://www.xbrljapan.org/index.htm

### 執筆者紹介



#### 原田哲夫

株式会社ワコール 本社事務統括部 所属 現在,経理総務事務を管掌,業務の効率化・システム化の 推進に従事



#### 大河原宏之

1988年日立製作所入社,情報・通信グループ 産業システム 事業部 産業第三システム部 所属 現在, Oracle EBSソリューション事業に従事 E-mail: ookawara @ itg. hitachi. co. jp



#### 亀井裕明

1990年日立製作所入社,情報・通信グループ 流通システム 事業部 第五システム部 所属 現在,流通業のシステムエンジニアリング業務に従事 E-mail: hi-kamei @ itg. hitachi. co. jp



#### 瀧 芙美子

2001年日立製作所入社,情報・通信グループ 産業システム 事業部 産業第三システム部 所属 現在, Oracle EBSソリューション事業に従事 E-mail: f-taki @ itg. hitachi. co. jp